

令和 4 年度 第1回静岡県東部眼科医会講演会

令和 4 年度 第1回静岡県東部眼科医会講演会を下記のごとく開催する事となりました。
お忙しい事と存じますが、是非ご出席下さいますよう、お願い申し上げます。

なお新型コロナウイルス感染状況に鑑み、視聴会場での参加は、web 参加環境が無い方、あるいはweb 参加が困難な方に限ります。先着 10 名までとなります。Webでの参加の場合は、有線LAN(Wi-Fiよりも接続が安定しています)及び最新版のZoom使用(PC、タブレット、スマホでも可能)を、お願い致します。ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。

記

■日時 2022 年 6 月 16 日(木) 19:00～21:00

■会場 プラザヴェルデ(沼津駅北口前:407、408号室)並びにWeb 開催(Zoom 配信)

■会費 開業医 2,000 円、勤務医 1,000 円、研修医 無料

■演題

(1)「医療訴訟の現状と問題～眼科事例を中心に～」

こはら眼科・順天堂大学大学院医学研究科(博士課程)病院管理学講座

峰村 健司 先生

座長 あいあい眼科クリニック 院長 名古 良輔

(2)「マイボーム腺機能不全の診断と治療 最前線」

伊藤医院 有田 玲子 先生

座長 杉浦眼科 院長 杉浦 毅 先生

主催 静岡県眼科医会
会長 高良 俊武

静岡県東部眼科医会
会長 名古 良輔

令和 4 年度 第1回静岡県東部眼科医会講演会

令和4年6月16日 2022東部眼科医会講演会

演題 I

こはら眼科・順天堂大学大学院医学研究科(博士課程)病院管理学講座

峰村健司 先生

【演題】

医療訴訟の現状と問題～眼科事例を中心に～

【抄録】

医療行為により期待と違う結果をもたらされた患者や遺族が、担当した医療関係者の説明に納得できずに、責任追及を検討する例が後を絶たない。近年、医療訴訟は毎年800件程度提起されており、眼科関連訴訟はそのうち年間20件前後と決して多くはないが、重要な感覚器である眼に関する訴訟では、1億円を超える高額な賠償請求をされることも稀ではない。実際の裁判では、裁判における法的責任判断のルールの中で激しい論戦が繰り広げられ、医療関係者および患者ないし遺族の双方が辛い戦いを強いられ疲弊する。最終的な結論である判決が、臨床現場の医療関係者には到底承服できないような内容となっている場合も少なくない。

以上のような事情もあり、医療訴訟に対して警戒心を持つ医療関係者は少なくないと思われる。しかしながら、法的責任判断にはルールがあり、裁判において不可解な判断が頻発しているわけではない。本講演では、医療訴訟の実例の紹介を交えつつ、裁判の基本的な仕組みと法的責任判断のルールを解説し、医療訴訟の現状を概観する。さらに、しばしば医療関係者に対して厳しい判決が出されるその原因についての検討を加え、医療事故の法的責任判断における問題点を指摘する。本講演が、医療訴訟に対する正しい理解につながり、過度な警戒心を軽減し、よりの確な問題意識を持つための一助になれば幸いである。

令和 4 年度 第1回静岡県東部眼科医会講演会

昭和42年11月25日生

【経歴】

昭和61年3月	東京都立国立高等学校卒業
平成4年3月	東京大学理学部地学科地理学課程卒業
平成4年4月	某旅行会社入社(同年12月退社)
平成5年4月	東京外国語大学朝鮮語科研究生(1年間)
平成13年3月	東京大学医学部医学科卒業
平成13年5月	医師免許取得、東京大学医学部眼科学教室入局
平成13年12月	武蔵野赤十字病院眼科
平成17年4月	久我山病院眼科
平成19年4月	久我山病院眼科医長
平成22年4月	河北総合病院眼科
平成23年4月	こはら眼科
平成25年3月	関東中央病院眼科
平成25年4月	関東中央病院眼科部長
平成27年4月	こはら眼科
同上	順天堂大学大学院医学研究科博士課程(病院管理学)入学
平成31年3月	順天堂大学大学院医学研究科博士課程(病院管理学)終了 医学博士学位取得
令和元年6月	順天堂大学大学院医学研究科非常勤講師(病院管理学)

演題 II

伊藤医院 有田 玲子 先生

【演題】

明日から役立つマイボーム腺機能不全診療最前線！

【抄録】

マイボーム腺機能不全(Meibomian Gland Dysfunction, MGD)は眼瞼炎の一因であり、蒸発亢進型ドライアイの主因である。日常の一般診療において私たち眼科医が遭遇する最も頻度の高い疾患のひとつだが、失明しない疾患でもあり、なにより根本治療となる治療薬が皆無だったため、見過ごされることが多い疾患だった。

2019年秋にアジスロマイシン点眼液が本邦でも処方できるようになり、状況は一変した。アジスロマイシン点眼液はMGDの特効薬として国際的MGD治療ガイドラインに掲載されており、多数のエビデンスが報告されている。今回は、実際のMGD患者にアジスロマイシン点眼を処方した臨床例を多数供覧し、最もよい適応、ムンテラや処方のコツをご紹介します。さらに、海外でもホットトピックスになっている白内障手術後の患者満足度をあげるための周術期MGD治療についても触れる予定である。

【略歴】

1994 京都府立医科大学卒業
2001 京都府立医科大学大学院博士課程修了
2002 慶應義塾大学眼科助手
2005 伊藤医院眼科副院長
2007 東京大学眼科臨床研究員
2011 慶應義塾大学眼科講師(非常勤)
2012 LIME研究会代表
2021 日本角膜学会評議員

国際ドライアイ学会理事

2011 TFOS(国際ドライアイ学会)MGD ワークショップ委員
2013 TFOS CL ワークショップ委員
2017 TFOS ドライアイワークショップⅡ委員

現在に至る